

様々な原因が考えられる「じんましん」

皮膚症状を見逃さないで

早期受診で早期治療

尋麻疹とは、皮膚の一部が蚊に刺されたようにびくつと盛り上がる腫瘍が病的に出現する疾患です。腫瘍は、地図状の様々なかたちや小さなプツプツが体や腕にたくさん出現するタイプなどがあり、その多くの場合は紅斑や強い痒みを伴います。中には、中心が白く見えるタイプもあります。

尋麻疹は、通常2時間～4時間で消退しますが、その最初の症状が現れてから1ヶ月以内のものを「急性尋麻疹」、1ヶ月以上続くものを「慢性尋麻疹」といいます。そのどちらも原因・誘因として、ウイルス等による感染・エビやサバなどの食物・疲労・睡眠不足・特定の薬剤などの関与が考えられますが、個々の腫瘍の出現について、直接的な原因ないし誘因がはつきりしない事の方が多く、そのようなタイプは「特発性尋麻疹」といいます。特発性の尋麻疹は、夕方から夜にかけて現れ、翌朝から翌日の午前中に消えて、また夕方に現れるという事を繰り返す事が多いです。特発性以外の尋麻疹は、特定の刺激

や条件が加わった時に症状の出現が誘導されるもので、生命の危険に陥る可能性があるのはこのタイプが多くなっています。その原因によって分類すると、大きく分けて7つのグループに分ける事ができます。

原因・誘因を見つけて治療をスタート

食物・薬品・植物(天然「/人)製品を含む)・昆虫の毒素などが原因となる「外來抗原によるアレルギー性尋麻疹」は接触・飲食・吸入などをした数分から数十分以内に出現します。特定食物摂取後2～3時間以内に運動負荷が加わることによって生じる「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」における尋麻疹は食物と運動がセットになった場合に起る事で、病院にかかるのを躊躇してしまうので、病院にかかるのを躊躇する方も多いでしょうが、形状出現した時刻・消退した時刻・食べた物や触った物などを覚えておけば、問題で診断可能です。腫瘍が出現している状態を写メに撮つておく方法もあります。尋麻疹が出現したら、悪化する前に早めに皮膚科を受診してください。

精神的緊張など発汗するような刺激が加わった時に起こる「コリン性尋麻疹」、皮膚粘膜が特定の物質と接触する事によつて起こる「接觸尋麻疹」があります。「物理性尋麻疹」は、機械的刺激や寒冷や温熱、日光や水などの刺激で生じるものです。



アドバイザー

加藤直子皮膚科スキンクリニック
院長 加藤 直子 先生

北海道大学医学部医学科卒業後、同附属病院皮膚科研修医、同助手。米国マイアミ大学皮膚科研究員。1989年から市立小樽病院皮膚科医長、1994年から北海道がんセンター主任医長を経て2010年加藤直子皮膚科スキンクリニック開院。医学博士。日本皮膚科学会認定皮膚科専門医。

Hospital Information

加藤直子皮膚科スキンクリニック

4月で開院1周年を迎えるクリニック。北海道がんセンターで16年間皮膚がんを専門に治療してきた院長がじっくりと患者本位の治療を行う。高度な医療機器を設置し、乾癬・類乾癬、脂漏性角化症やほくろの手術などに対応している。皮膚がんや膠原病、アトピー性皮膚炎からスキンケア指導まで、提携病院と連携を取りながら万全の体制で治療を行っている。

札幌市中央区北1条西7丁目
パシフィックマークス札幌北1条6階

☎ 011・211・0997

<http://www.web-clover.net/katonaokohihuka/>

こそだてライフをたのしむ



はっぴーママ

お近くのコンビニ・書店で好評発売中!

発行元: 株式会社エムジー・コーポレーション はっぴーママ編集部 TEL.011-832-9103